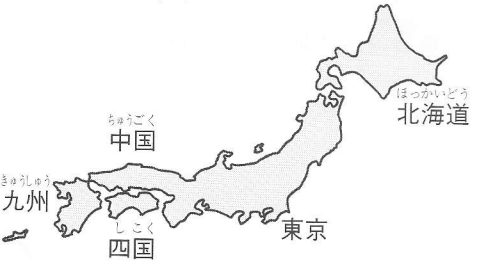
「雪が降っている」という表現は、二つの状態を指して使われる、と国語学者の金田一春彦さんが書いていた。

一つは今まさに雪がちらちら降っており、地上にどんどん積もっている状態。もう一つは、朝起きて外を見ると、夜の間に雪が積もって、今はやんでいる、そこで叫ぶ「あ、雪が降っている」。ところが、中国、四国、九州の言葉なら、二つの状態は区別して表現できるのだそうだ。

前の場合には「雪が降りよる」といい、後者なら「雪が降っとる」または「降っちょる」という。「こういう区別はあった方がいい、方言の言い方を取り入れることは無理であろうか」と金田一さんは*指摘していた。これは、方言が共通語よりも事態を細かく言い分けている例といってよいだろう。

（朝日新聞1992年４月19日より）

＊指摘する＝大切なことを取り出してはっきり示す



Ⅰ 「雪が降っちょる」というのはどういう意味ですか。

1．雪が今、ちらちら降っている。

2．雪が地上にどんどん積もっている。

3．雪が降って積もったが、今はやんでいる。

4．雪が降って積もり、今もまだ降っている。

Ⅱ 金田一春彦さんの考えに一番近いものは次のどれですか。

1．共通語に方言を取り入れると、混乱するので、やめたほうがいい。

2．方言はその地方だけの言葉なので、共通語を使ったほうがいい。

3．方言で事態を細かく言い分けられる場合、共通語にその言い方を取り入れたい。

4．共通語で事態を細かく言い分けられる場合、方言にその言い方を取り入れたい。